

# なでしこ通信



令和4年4月10日発行

vol.179

三重県済生会明和病院 なでしこ 〒515-0312 三重県多気郡明和町大字上野435

TEL・FAX : 0596-53-0010 Eメール : nadeshiko@meiwa-saiseikai.jp ※重症心身障害児(者)に特化しているため旧名称を記載しております

## 笑顔、つながれ! ~コロナ禍における面会状況~



月に2回、1回10分程度、多い方で2年間で36回。時間にすると2年間で6時間。これは新型コロナウイルス感染症の流行が始まってから面会を希望される家族さんの現在の面会状況です。新型コロナウイルス感染症の流行により今までの生活とは違った生活様式が求められてから2年が過ぎました。

当施設でも影響を受け、2020年2月より面会制限をさせていただいております。2020年4月7日からの非常事態宣言下では一切の面会を禁止し日常の様子を写真に収めた手紙を郵送して利用者さんの様子を伝えていました。宣言が解除されてからは1日2組、2021年10月よりは1日3組、10分間の

面会を開始しています。利用者さんは室内より、家族さんは室外からの窓越し面会や、当施設の玄関からのオンライン面会、ご自宅から無料通話アプリを利用したオンライン面会と、感染の状況により柔軟に対応できるような体制をとってきました。家族さんは直接会えないことにもどかしさを感じながらも、「顔を見られるだけでも安心する」と、10分間の面会を続けていただいています。

私たち職員は利用者さんと家族さんの面会に立ち会わせていただき、少しでもお互いに元気に過ごしている姿を見てもらいたい、笑顔になってもらいたいと、取り組んできました。実際に面会中の利用者さんは家族さんの声に耳を澄ませたり、顔を見たりした時には、嬉しそうな表情や安心して口元や目元が緩んだ表情、体の緊張が抜ける様子からも、楽しまれていることが伝わってきます。

また、ご都合が合う家族さんには誕生日会へのオンライン参加を始めました。誕生日当日は画面

越しではありましたが家族さんにお祝いの言葉をかけてもらったり、「Happy Birthday」の歌をうたったりして、一緒に笑顔で過ごしていただきました。

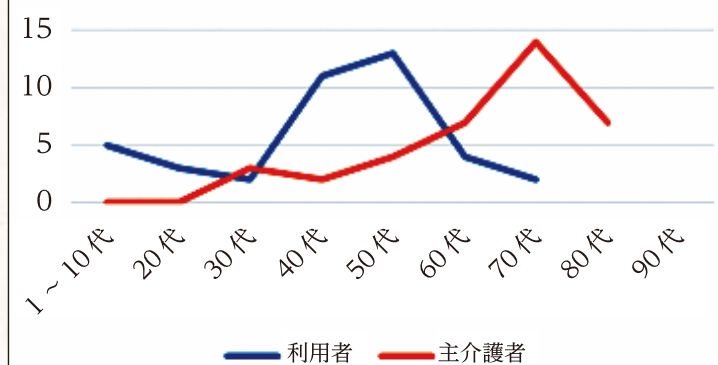


成人利用者さんの平均年齢は49歳。その主介護者の方の平均年齢は71.5歳であり、通信機器に慣れていない家族さんも多く、またご自宅が遠方のためなど様々な事情により面会できない方もいらっしゃいます。まだまだ検討事項はありますが、少しでも利用者さんと家族さんが一緒に楽しい時間を過ごしていただき、利用者さん、家族さんの笑顔を職員一丸となつてつなげていけたらと思います。

(指導員：大西)



利用者と主介護者の年代と人数





## 節分

### ♪ そうだったらいいのにな～♪

2月3日(木)に節分行事を行いました。今年はなんだか厄介な菌がウロウロしています。なでしこではそんな菌たちと一緒にやっつけようと各部屋に赤鬼がやってきました。見た目は怖そうですが

なでしこのみんなと一緒に戦ってくれました。

利用者さんには、イラストが貼られたプラカードと、太鼓が手渡され、「そうだったらいいのにな」を節分バージョンにアレンジし、

振り付けや、ピアノ・太鼓に合わせて利用者さんにタッピングで賑やかな時間を鬼さんと一緒に過ごしました。

みんなの元気いっぱいの笑顔で菌たちとさようなら～。各部屋での小規模な行事になってしまい残念ですが、利用者さんに職員が一人ずつついて



関わる事ができたので、楽しい気持ちで参加できたのではないのでしょうか。

(入所介護士：米田)



## ふくよこいこい♪ 恵方巻き

2月3日(木)、通所で節分行事を行いました。今年はフェルトや不織布、クレープ紙などいろいろな素材を使い、利用者さんみんなで恵方巻きを作りました。マグロにきゅうり、かんぴょう、卵焼き、桜でんぶ…。なんと、ウナギや伊勢海老も一緒に巻いて、とても豪華な恵方巻きに。すると鬼が登場!!でも利用者さん誰ひとり怖がる様子はありません。なぜなら、今年来てくれた緑鬼はとっても優しく

て可愛い鬼さん。利用者さんと一緒に活動したいと通所に遊びに来てくれたのでした。利用者さんと一緒に具材を運んだり、恵方巻きを巻いたり。あまりに近くにきてくれて、目をパチパチ!!少し驚かれた方もみえましたが、恵方巻きと一緒に持ち、カメラに向かって「ハイ、ポーズ!!」と声をかけるとたくさん、いい笑顔を見せてくれました。今年の恵方は北北西。みんなであちらの方角を向いてみる

と、なんと、コロナウイルスが!! みんなで豆に見立てたボールを投げ、最後は緑鬼が厄介な菌を連れ去って行ってくれました。

なかなか思うようにいかず制限もある世の中ですが、伝統的な行事を大切にしながら利用者さん、職員みんなで笑顔になれる時間を大切にしていきたいと思えます。

(通所保育士：城山)





## お雛様と一緒に「ハイ!チーズ」



3月1日(火) ひなまつり行事を行いました。今回のひなまつりは、最初にひしゃくと三人官女について説明した後、自分の好きな顔のお内裏様、お雛様を作成!!あらか

じめいくつかのパーツ(目、鼻、口、眉)をクリアボードに切り抜き、準備したものを利用者さんと一緒に選び、スタンプを使って顔を作りました。

利用者さんの中には、好きな芸能人の顔に似せて輪郭を切ったり、髪形をカットしたりして、それぞれが思い思いにパートナーを作っていました。そして、作ったお内裏様、お雛様と一緒にツーショット写真をパシャリ!!素敵な写真が撮れました。

みなさん知ってました!?三

人官女の真ん中の人だけ、結婚をしているそうですよ。実は真ん中の人だけ眉が無く、お歯黒ですよ。また来年よく見てください。

(通所保育士:奥野)



## 三重県南部医療的ケア地域支援連携会議 第15回みえる輪ネット

### テーマ『ないもの創るぞ! 紀南の底力』

2022年2月20日(日)、当施設が事務局を務めます『みえる輪ネット』の第15回をオンラインにて開催し、県内外より福祉・医療・行政など100名以上の関係者に参加していただきました。

みえる輪ネットは医療的ケアが必要な方々への地域支援を高めることを目的に作られたネットワークであり、今回のテーマは『ないもの創るぞ! 紀南の底力』としまして、熊野市、御浜町、紀宝町でなる紀南圏域の行政及び関係者から事例発表をしていただきました。また、三重県小児科医会等が中心となって発行した『災害時対応ノート』の内容説明を行い、実際の作成事例を伊勢市の訪問看護ステーションより報告いただきました。

紀南圏域からは特定の利用者を対象とした、痰の吸引や経管栄養を実施するために必要な研修、『第3号喀痰吸引等研修』を地域で開



催して有資格者を増やした取り組みや、県内で初めて実施した居宅訪問型保育事業の事例、保育所で子ども心身発達医療センターのセラピストのアドバイスを受けながら実施される保育の様子など、地域課題に対して地域が一体となって実践されている、まさに『紀南の底力』を見せていただいた内容でした。

『災害時対応ノート』は医療的ケア児とその家族が、災害時の自助を高めるために必要な準備や情報をまとめるノートで、その内容は避難ルートの確認や、停電時の電源確保などが記されています。実

際にノートの作成をされている訪問看護ステーションほたるいせより、作成をすることで対策がより具体的になること、そして家族だけでは災害対策を完結させることは難しく、支援が必要で初めて『生きた災害対策』になるという教訓を伝えていただきました。

今回は令和4年7月31日(日)に開催を予定しております。参加に関するお問合せは、

TEL: 0596-53-0010

(なでしこ直通) または、

Mail: nemu02@meiwa-saiseikai.jp までご連絡ください。

(QRコードからメール送信も可能です)

(指導係長:青木)



